

名古屋大学医学部附属病院

病院長名	小寺 泰弘
所在地	〒466-8560 愛知県名古屋市長和区鶴舞町 65 番地
交通案内	JR 中央線「鶴舞駅（名大病院口）」下車 徒歩 3 分 名古屋市営地下鉄「鶴舞駅」下車 徒歩 8 分

□ 病院の特徴

名古屋大学では、従来より、卒前から卒後に至る一貫した臨床医学教育を実現するために、『総合医学教育センター』を設置するとともに、2008年度からは、初期研修後の専門医育成も支援するために、『卒業臨床研修・キャリア形成支援センター』として機能充実を図り、研修サポート体制の拡充を行った。これにより、名大研修の特徴である関連病院と密接に連携した質の高い臨床教育をより円滑に推進できるようになった。すなわち、2年間の初期研修のみならず、後期・専門研修のキャリアパス整備とキャリア形成の積極的支援など、後期研修や専門研修においても、病院として責任を持った体制が確立したと言える。各種教育ツールを一括管理してシミュレーションによるトレーニングを進めるとともに、OJT (On the Job Training) を重視して臨床手技の習得が速やかに行われるように力を注いでいる。

□ 研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

名古屋大学産婦人科研修施設群産婦人科研修プログラム

【研修目標】

- 患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる産婦人科専門医を育成して、県民、国民の健康に資する。
- 高度な医療に携わり標準治療や先進的な医療を経験し学ぶとともに、地域医療を担う連携病院での研修を経て東海地域の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行う。
- 基本的臨床能力獲得後は産婦人科専門医として東海全域を支える人材の育成を行う。

【研修期間】

3年

【研修スケジュール】

3年の研修期間中、基幹施設である名古屋大学附属病院での6ヶ月間以上の研修を必須とする。詳細は下記 HP を参照のこと。

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/obgy/training/program/>



▲指導医の手術指導の様子



▲産婦人科野球チームで息抜き



□ 主な連携施設

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、愛知県がんセンター、名古屋掖済会病院、中部労災病院、中京病院、大同病院、公立陶生病院、名古屋記念病院、公立西知多総合病院、常滑市民病院、豊橋市民病院、トヨタ記念病院、小牧市民病院、岡崎市民病院、豊田厚生病院、刈谷豊田総合病院、安城更生病院、半田市立半田病院、春日井市民病院、大垣市民病院、岐阜県立多治見病院、静岡済生会病院

□ メッセージ

指導医 (産婦人科学教授 梶山 広明)

あなたが医師を志した理由はなんでですか？成績が良かったから、開業医を継がなければいけなかったから、ブラックジャックに刺激されて、など様々でしょう。きっかけがどんなものであれ、ひとの役に立ちたい、病気を治し喜んでもらいたい、など純粋な気持ちが根底にあると思います。



産婦人科は、社会から必要とされ、患者さんと喜びを共有し、生命の誕生という神秘に立ち会える、やりがいのある仕事だと感じます。産婦人科は生命の誕生に立ち会うだけでなく、出生前後で母児に深く関わり、思春期・性成熟期・老年期の女性の健康をトータルでサポートし、時には婦人科腫瘍の手術を中心とした集学的治療を実践する、幅広い診療分野です。

名古屋大学産婦人科研究施設群産婦人科研修プログラムでは、多くの連携施設と協力しながら東海地域の産婦人科医療を担っています。それぞれに特徴を持った連携施設との緊密な連携により、基幹施設での高度な医療や先進医療の経験だけでなく、幅広い連携施設の中でそれぞれの専攻医のニーズに合わせた個別の研修プログラムの提供が可能です。

生命の誕生から死まで、女性のトータルサポートを行う女性総合診療科として、ともに取り組んでいく仲間を心から歓迎します。

□ 募集要項

・採用予定人数	25人
・給与/月額	月額約20万円に加え、該当する場合に手当(通勤手当、超過勤務手当、夜勤手当、特殊勤務手当(夜間診療業務手当等))を支給
・当直回数/月	約5回/月
・当直料/回	20,000円/回
・その他	平日日勤帯の外勤等(週1日まで)可
・応募連絡先	担当者 中村 智子 電話番号 052-744-2261 Eメール tomonakamura@med.nagoya-u.ac.jp